

令和2年度 第3回指導力向上支援・判定会議会議要旨

- 1 日 時 令和3年2月10日（水）10時00分～11時00分
- 2 場 所 大阪市役所3階 教育委員会事務局内教育委員室
- 3 出席者 （委員）
森委員長・八田委員・高橋委員・沼守委員・藤田委員・宮崎委員
（事務局）
井内教務部教職員資質向上担当課長・原教育センター教育振興担当課長・
細田指導部指導主事・菅教務部担当係長・塩田教育センター総括指導主
事・山形指導員・梶川指導員・久野指導員・平川係員
（事務局側一部出席者はwebでの参加）
- 4 議事要旨 指導が不適切である教員の研修後の措置についての意見聴取を行ったと
ころ、当該教員に対する措置として、校外におけるステップアップ研修
の延長が妥当であるという意見があった。
- 5 主な発言内容
 - ・第二次研修では、研修意欲の変容が見られたが、進んで児童に関われなかった。児童に対する愛情がなければ、当該教員の課題の改善は難しい。在籍校研修においても、児童に寄り添う様子が見られず、自分本位な見方・行動をしてしまうという課題が見られた。教員としてというよりも、社会人としての難しさを感じる。
 - ・教師として、児童が学校に来てくれることが嬉しく、児童に会いたいと思って学校に勤務できることが必要である。そうでなければ、どうして教師になったか疑問に感じる。
 - ・コミュニケーション能力や対応力について、いくら指導されても当該教員自身では改善できないのではないかと思う。そうであるならば、教員として現場に復帰し、児童を指導するのは難しい。
 - ・授業実践では、論理的に組み立てて授業をする、準備をするという点について改善が不十分であった。客観的に見るのが苦手で、抽象化する力が不足していることが現象として出ているのではないかと思われる。
 - ・当該教員の「どういう人間になりたいのか」というマクロの視点から始め、「どんな教師になりたいのか」というそもそもの思いや信念を再確認する必要がある。教員としての職業・興味の面で、一人でコツコツと取り組むことは向いているようだが、人に関わるという点において、仕事の適性があるのかどうか、そのことを当該教員

自身で確認する必要がある。引き続き研修の必要性はあるが、当該教員のモチベーションになるものと、自身の理想とする教師像がつながっていない。

- 第二次研修においても、当該教諭の課題の改善は見られない。しかしながら、研修中の、指導員による粘り強くあたたかい指導により、自身の課題に気が付いたように感じられる。「指導を素直に受け入れられるようになった」という改善もあったので、第三次研修という機会を持つことは必要である。ただ、現時点では、まだ研修であるという意識が強く、実際に目の前の児童に対して対応することができなければ、現場に戻るのは難しいだろう。
- 当該教員に対する措置として、校外におけるステップアップ研修の延長が妥当である。